

大阪税関関西空港視察ツアー 学生レポート

訪問日時:2018年5月1日 午後3時半から5時半

参加者:大阪大学学生20名+引率教員4名



赤井ゼミの現場編として、大阪税関(関西空港)の視察ツアーを企画した。

スケジュール

日 時:2018年5月1日(火)15:25~17:10

15:25 関西空港駅 南広場集合 CIQ庁舎 発

↓

麻薬探知犬センター見学(20分)

↓

DHL施設(貨物地区内)の見学(20分)

↓

CIQ庁舎 着

隠匿具、知的財産権侵害物品の見学(10分)

第1旅客ターミナル税関検査場見学(20分)

17:10 終了

本年は、ゼミツアーとして、大阪税関の御厚意で関西空港での現場を見学した。税関は、入国の際に目にはするが、どのような仕事なのかを、実際に、眼で見て、考えるという機会はなかった。

麻薬探知犬の訓練では、犬の能力を最大限引き出し麻薬の発見に活用する仕組みを、DHL 施設では、物流現場において、きめ細かな検査を効率的に行う仕組みを、隠匿具、知的財産権侵害物品の見学では、巧妙な手口に対応していく経験が必要なことを、最後に、税関現場では、目を光らせる税関職員の意気込みを感じることが出来た。

税関は、日本の玄関口での番人であり、常に冷静さが求められる。グローバル社会の中で、物流規模が飛躍的に伸び、また、インバウンドの拡大により、旅行者もその荷物も規模のみならず多種多様になってきている。スムーズな入国と、適確なチェックのバランスは難しい面もあるが、ITの活用による審査強化とコスト効率化、これまでに積み上げられた経験こそが、その両立を可能にすると思われる。

参加学生は、この視察を通じて、税関を通じて社会を知る良い機会になったと思われる。実施後のアンケートでは、参加学生全員が大満足との回答をした。以下に、学生の感想をまとめる。

文責 赤井伸郎(大阪大学国際公共政策研究科教授)

参加する前に持っていた、税関へのイメージについて。

1. とても厳しそうな体育会系のイメージ。たくさん禁制品を摘発している。しかし、それぐらいしか知らず、あまり実体は理解しておらず他にどのような業務があるのかが不明。
2. 日本への輸入品を検査し、持ち込み不可なものの注意喚起をし、持ち込んだものを取り締まったし押収したりする、日本の玄関口のイメージ
3. 金や麻薬の密輸入と戦ってるイメージ。とんでもないところに隠しても見つけられるプロ集団。悪いことをしてなくても、自分が見られるときはちょっと緊張する威圧感がある。
4. 旅行の時に機内で配布される申告書の管理や麻薬などの薬物の押収、ブランド品の偽造品の押収などを行う場所というイメージ。
5. 率直に申し上げて、今回視察させていただく前に税関に対して抱いていたイメージというのは高校時代の友人の父が勤務しているなどといった認識でしかなく、また一般的知識という面でも国内外から輸送されてはならないもしくは輸送するのに手続きや金銭が必要とされるものを取り締まる、と言ったような曖昧なイメージしか有していませんでした。
6. たくさんの監査員が並んで旅行者の荷物等を厳しくチェックしているイメージであった。麻薬取り締まりや物流のチェックなども仕事だとは考えていなかった。
7. まず、単純に「怖い」「厳しい」イメージがあった。私自身、今まで悪いことをしてきた訳ではないが、海外旅行や通販を利用するときに税関と関わる時は、少し緊張してしまう。逆に、そのような厳しいイメージから、日本や私たちの生活を守ってくれているイメージも感じていた。
8. すごく厳格で、厳重に警備が行われていて、わたしたちのような一般人が簡単に入れるような場所ではないと思っていました。厳密に制度や規則が決まっていて、どちらかという怖いイメージがありました。
9. 「税関」という硬い名前に対し、実際はそこまで厳しくない検査が行われているというイメージ。これは最近海外から帰ってきた友人が、ジャーキー（肉類）を持って帰ってお土産として配っていたのも目の当たりにしたから、ということもあるかもしれない。
10. 税関といえば、税関での本の中身のチェックが検閲にあたるのかどうかという判例で見たのと、海外から帰った時にさらっと通るとのことぐらいしか知らず、正直飛行機に乗るときの保安検査との区別がついていないという状態だった。
11. 日本に密輸される麻薬や金、または人、物を介して日本にもたらされる病原菌などに対する最後の砦であり、あまり目立っているイメージはないが、社会的にとっても重要な役割を担っている。
12. 税関というと、機内で記入する税関申告書の審査のイメージが強かったが、実際どのような手順でその作業が行われているのか詳しくは知らなかった。日本の玄関となる空港や港で旅客の管理をし、日本の安全を守っている印象も強い。
13. 税関には国際的な物流における窓口、というイメージを持っていた。また、密輸などの対策のプロフェッショナル集団である、というイメージもある。グローバル化が進む社会において、とても有意義な仕事であり、職員の方も非常に志の高い方ばかりなのだろうと思う。

14. 税関といえば、海外旅行なんかをするときに空港にある一つのセクション程度の認識しかないのが本音である。それも、入国管理書なんかを書かされるという意味でめんどくさいものだという認識だった。もっと大きな視点で見ると、違法薬物や金塊などを取り締まる機関で、日本の玄関口を守る機関なのは認識していた。
15. 黄色い紙を提出する場所というイメージしかなく、堅いところという印象であった。またそこで働いている人も愛想の悪い人という偏見しか持ち合わせていなかった。仕事内容は特に知らなかった。
16. 普通に生活をしていれば直接的に関わることはない場所であり、旅行の時なども素通りするだけで、具体的なイメージは全く持っていなかったです。日本に持って帰ってこられたもので、税金に関するものを扱ってるんだろうなぐらいのイメージでした。
17. 「日本の輸出入の番人」というイメージ。何を持ち込むにも持ち出すにも、税関を通らなければモノのやりとりはできないので、非常に厳格な機関であるというイメージがあった。
18. 帰国後の税関申告が一番身近な接点であり、多くの人でこった返しているイメージがあった。また、全員に申告書の提出義務があることや何回か旅行かばんを開けて検査することなどもあったので、他の国の税関検査と比べて、比較的厳格に検査をしているイメージもあった。

今回の税関現場視察から感じたこと、学んだこと：満足度評価の理由も交えて。場所別(①麻薬探知犬訓練所、②DHL 物流施設、③税関出の押収品、④税関現場)

1

"①麻薬探知犬訓練所：麻薬探知犬はよく訓練を受けた賢い犬だと思っていた。しかし実際はとても活発な犬で、動物の習性を利用した麻薬探知方法に驚いた。

②DHL 物流施設：世界一の物流を目の当たりにすることができ、とても楽しかった。また、工数を減らす様々な仕組み・制度まで教えて頂いて貴重な経験となった。

③税関出の押収品：古典的な手法から、とても手の込んだものまで様々で、管理する側は工夫が必要だと思った。

④税関現場：視察の日はあまり混んでおらず、よく見ることができた。いつもは検査を受ける側なので緩い雰囲気だが、検査する側は緊張感がとてもあることが伝わってきた。"

2

①麻薬のあるところで遊んでもらえると思わせる仕組みを初めて知り、素晴らしいなと感じた。麻薬探知犬をみるのははじめてだったが可愛らしいと思った。②床下のローラーや輸出入のふたなど、効率化を図るシステムが多数見られた。ローラーを使えば 300kg のものも軽々運べることに驚いた。③本物そっくりのものや靴底に仕込まれた麻薬までを押収していて、技術の高さを感じると共に、対策はいたちごとこであることもわかった。

④輸出と輸入では時間帯が異なるため、日中と夜間での 24 時間体制によって日本の玄関口は守られていることがわかった。

3

- ①麻薬探知犬が特別賢い犬というわけではなく、特別元気と好奇心が旺盛な犬だというのが感じられて面白かった。また、空港などでは一般の人を驚かさないために、シェパードではなく、ラブラドルという話に納得した。
- ②大きな企業が空港内に倉庫を持っていて、そこに直接飛行機が発着することすら知らなかったのが、驚いた。
- ③金や麻薬はともかく、コピー品を大量に押収するノウハウがすごいと感じた。
- ④金の探知ゲートを見て、あれがあってもなお金を密輸しようとする人たちのすごさに驚いた。"

4

- ①麻薬探知犬の育成方法として麻薬そのものの探知を目的とするのではなく、麻薬を探知することで玩具を得られるという認識を植え付けることが印象的であった。そして麻薬の探知率が、テモンスターションではほぼ 100%であったことも印象的であった。
- ②地面のコロや計量器、仕分けの際の色わけ等、ハブ空港ならではの効率の良いシステムが印象的だった。また昼夜で分けてシフトを組んだりと外資系企業ならではの仕組みが印象的だった。
- ③偽造品と言えば高級ブランドの偽造品というイメージがあったが、実際には apple 社のイヤホンやクロックス社のサンダルといった、大学生でも気軽に買うことのできる物が多かった。それにその類いの商品に限って偽造品と気づきにくい見た目をしていたことが恐ろしいと感じた。
- ④金の密輸が最近多いため導入されたという全身を覆う機械を初めて見た。

5

- ①視察させていただく前は、犬自身が潜在的に能力値が高く、もしくは調教により得たスキルでにおいをかぎ分けていると思っていました。しかし、実際にお話を聞いて、犬自身は宝探しのゲームのような要領でその行為をしているのだと知って、私自身実家で犬を飼っているからかなんだか勝手に親しみを感じてしまいました。
- ②私の知識不足で、視察前は DHL という企業様を存じ上げませんでした。しかし、輸出入物の計量や分別などをする作業場やオフィス内を見学させていただいて知見を深めることができましたと考えています。
- ③以前にも別の場所において、税関でかつて押収された物品などを拝見させていただいたことがありましたが、今回も新たなものを目にすることができて大変興味深かったです。偽物・違法ながらも様々に凝らされた工夫には驚かされました。
- ④私はあまり海外経験が無く、まともに税関を通過したのは今年の春休みが始めてだったので新鮮な気持ちで視察に臨むことができました。税関職員の方々の勤務形態などをお聞きして、尊敬と慰労の念を抱かずにはいられませんでした。

6

- ①麻薬探知犬の識別能力の高さに驚いた。また、麻薬探知犬の麻薬を探す仕組みも教えてもらったのは非常に興味深かった。さらに訓練施設は意外に大掛かりで驚きだった。

②海外から送られてくる又は海外に送り出す貨物を一括で管理している施設に初めて入れたので良い経験となった。また、税関が旅行者の荷物だけでなく、このような貨物までもチェックしていることは初めて知った。オフィスにも入らせてもらい、物流管理の仕事の忙しさが伝わってきた。

③様々な押収例の現物を見せてもらい、犯行の生々しさを知れた。また、犯人は意外にも古典的な方法を使うことに意外だった。しかし、押収件数が非常に多いことから犯人とのいたちごっこが繰り返し行われていることもわかった。

④荷物受け取り口には金属探知機など様々な設備があり、密輸を防いでいた。金属探知機や X 線検査にかけるかどうかを一瞬の不審な動きを見て判断するという現場職員のスキルに驚いた。"

7

①麻薬探知犬訓練所：麻薬探知犬を育てる方法・犬が麻薬を見つけられる仕組み（麻薬のにおいと「ダミー」とを関連付けて認識させる仕組み）にはとても驚いた。②DHL 物流施設：今回の税関現場視察において最も面白かったのが DHL の視察であった。私自身も海外の通販サイトを利用するときに DHL のお世話になって、細かな申請の不備から電話を頂いたこともあった。そのような「細かい」不備も見逃さない仕組みを間近で見れたのは非常に貴重な経験だと思う。また、私はある国からある国へ「正確に」荷物が届くことを当たり前と感じていた部分もあったが、その当たり前を支えている施設・人に出会ったことでその点をとても考えさせられた。同時に（将来の就職先という意味として）物流の世界にとっても興味が沸いた。③税関での押収品：明らかなコピー商品から巧妙な偽物まで、税関での押収品は意外に多いことを知った。④税関現場：私自身も海外旅行で関空を利用したことがあったが、ボディーチェックエリアや門型の金属探知機の存在は知らなかった。また、「台湾で狂犬病が発生した」などの看板を見て、その時々に応じた臨機応変なチェックが求められることも学んだ。

8

①一般人向けの案内が日ごろからされているような展示があつて驚きました。そもそも麻薬探知犬が税関で訓練、管理されていることは初めて知りました。今まで、犬の知能が高いからこそ成せることであると思っていたけれど、訓練の様子を見学させていただいて、犬の習性をよく理解して、それをうまく扱う人間の知能に感動しました。

②思い貨物を運ぶ工夫がなされていて非常におもしろいと感じました。動線もよく考えつくされていてたいへん興味深かったです。

③税関の裏をかいくぐるような手口をつかっていたり、ブランドの偽物のレベルの高さであつたりが、想像をはるかに超えていました。一市民として、税関のレベルが密売者たちの上を保てることを祈ります。"

9

まず麻薬探知犬の訓練所では、探知犬に麻薬を見つけさせる仕組みやモチベーション付けについて学び、実際に普段私たちが目にするもののない裏での活動を間近で観察することができ、大変貴重な体験をさせていただいた。DHL 物流施設では飛行機から直接届くイメージがしたが、せっかくなら飛行機から荷物が降ろされる様子も見てみたかった。税関では新たな発見もあった。近年の金密輸入の増加に伴って新たに導入され

た探知機である。普段関西国際空港を使っている時は関税の仕組みなど詳しく知らず通過しているだけなので、今回この機会を紹介され大変面白かった。

10

①麻薬探知犬が想像よりも激しく動いていたので、耐久性のないバッグを荷物として預けるべきではないということがよく分かった。②物流施設は税関の手続きを会社がいろいろとしているのだということを知った。飛行機での輸出入の場合、荷物が早く着く分、手続きを早くしなければならぬため、そこに費用が掛かることになるのだろうという風に思うようになった。③税関の押収品に偽物のブランド品が多くあったが、一人ひとり調べるというわけではないので実際はもっと入ってきているのだろうと感じた。金の密輸については、結局問題となるのは脱税についてだけなのだろうか。あまり罰金刑が犯罪の予防になるとは思わない。④いつも通る税関だが、ゆっくり見ると少し違うように見えた。普段はいかに早く通りぬけるかを考えるが、ゆっくり見ると怪しい人用にいろいろな施設があった。

11

①実際に麻薬探知権がどのようなメカニズムで麻薬を探知するのか、また日々のトレーニングなど、興味深いことが数多く知れたとても有意義な視察だった。②世界のあらゆる方面から日本に入ってきて、日本のあらゆる地域に運ばれていく数多くの荷物を実際にどのようにしてさばっているのか知ることができた。③年々その手口や取引されるターゲットが異なる中で、それらに対応した体制が構築できているのか大変興味深くお話をしていただけた。④税関内ではそれまでの成果が強調されていたが、巧妙な手口で密輸を試みる密売人を発見し、検挙する体制が実際の現場でどれほど構築できているのか疑問が残った。

12

税関というと、旅客の管理による安全管理というイメージだったが、今回 DHL の視察などを通して、貨物の安全管理も税関の大きな役割の一つであるということを実感した。①先日旅行帰りに麻薬探知犬を見たところだったので、実際にどのような訓練が行われているのか、実際麻薬を発見した時どのような反応をするのかに非常に興味があった。今回、実際に麻薬探知犬の活動を見ることができ、知りたかったことも知ることができたので非常に満足だった。

②DHL の物流施設は想像以上に規模が大きくて驚いた。ボールが埋め込まれた床も面白かった。実際に荷物が振り分けられているところが見られなかったのが少し残念だった。また、DHL 職員の方のお話で、機内で予備申告を行い、税関審査を済ませる荷物があるということを知り、そのシステムと、地上でその対応をする仕事も興味深かった。

③税関で押収された麻薬や偽造品を実際に見ることができ、貴重な体験だった。実際押収する際は、物品だけを見て判断するというよりは、その前に旅客の行動や仕草をよく観察していると、そういったものを持っているかどうか見抜けることが多いというお話を聞き、税関での仕事は長年の経験が必要なプロの技によって支えられている面が大きいと感じた。

④税関現場は、珍しく人が少なく閑散としていたのに驚いた。その分改めて税関現場をゆつくりと見渡すことができたおかげで、植物や生物の検疫カウンターがあることを初めて知った。また、税関の出口付近にある個室のような場所の用途は何なのかいつも不思議に思っていたが、今回知ることができてよかった。"

13

①実際の麻薬犬の訓練の様子を目で見ることは滅多にない機会だと思うが、大変貴重な経験になった。訓練のしくみは、想像していたものと全く異なっており、驚いた。また、訓練は予想以上に肉体的にハードなものであるということが分かった。②小中学生のころ、社会科で飛行機を使った国際貿易について学んだことはあったが、今回その現場を見ることで初めて航空機による輸出入を実感的に学ぶことができた。たくさんの荷物が一日に輸出入されることに驚くとともに、それらの情報に世界中からアクセスできることや、正確に管理されていることにも技術の素晴らしさを感じた。③商標権に背いて押収された物品を見るのは初めてで、見ているだけで面白かった。複製の精度が高いものもあり、どのようにして見分けているのか興味を持った。④普通であれば帰国するときに通過するロビーに、普通とは違う入り方をして面白かった。普段なら立ち入ることのできない、建物の裏側を見ることができ、このような構造になっているのか、と思うと面白かった。

14

①麻薬探知犬訓練所については、新しく学べたことが多かった。麻薬探知犬は恐ろしく頭と嗅覚がよく、完璧に麻薬のにおいを覚えていて、何なら麻薬の有害性なんかも知っているようなイメージだった。それがただ遊びたいがために働いていると知って、脱力感のようなものを感じるとともに、その方法を考えた人間に対して感心した。

②DHL 物流施設に関しては、全く知ることがなかったので、この視察もまた学べることが多かった。具体的には税関との連携や施設においての荷物の振り分けなどが自動化されていることなどである。一つ感じたのは、これが外資系の企業であり、日本の企業でないことに対する落胆のような感情であった。"

15

①今回初めて麻薬探知犬をあんなに間近で見て、非常に心躍る体験であった。探知犬は麻薬を搜索するように訓練されているのではなく、タオルで遊びたいがゆえに麻薬の匂いをかぎ分けているということが初耳だった。②個人的に物流には全く興味がなかったが、この日最も印象に残ったのが、この見学だった。私たちが普段利用するネット通販の品ものはこういう風に届くのだからということがわかり、非常に興味をそそられる内容だった。③押収品の中で最も驚いたのは麻薬が実際に入っていたスーツケースだ。内部は三層に分かれており、密入者の執念を感じた。④X 線をも用いて携帯品をチェックしているところに管理の厳重さがうかがい知れた。私はよく持ち物検査でひっかかるので、背筋がピンと伸びる思いだった。

16

①麻薬探知犬訓練所は非常に楽しかったです。犬の遊びたいという気持ちを上手く利用して、日本の安全を守っているんだと学びました。ハンドラーの人は犬がちゃんとできたら褒め、全力で遊んであげていて、体力が非常にいる仕事だなと思いました。

②普段は絶対に見ることの出来ない DHL の施設を見ることができ、非常にワクワクしました。毎日多くの荷物が飛行機で運ばれ、あの施設できちんと仕分けされて私たちのもとに届いているんですね。事務所の方のタイピングの技術には度肝を抜かれました。

③人はたくさん知恵を絞って麻薬などを運ぼうとしているんだなと思いました。さすがに自分の体内に入れてまで、運ぼうとしているのには執念といったものまで感じました。また偽物のブランド品などは、私は見ても本物と見分けがつかないものが多く、これらを偽物だと見破る技術を持つ人はすごいなと思いました。

④本当に時間が短くて残念でした。自分が旅行などから帰った際に何も考えずに素通りしている場所を、説明を聞きながら見るというのはまた違った感じで、これから税関の前を通るときは、お勤めご苦労様ですと思いがら通ろうと思いました。"

17

①何度も空港を利用している割に、麻薬探知犬はこれまで見たことがなかったので、まずその大きさに驚いた。また、犬種が決まっていることや、意外と単純な仕掛けで麻薬を探させているその訓練法などについて初めて知り、「麻薬探知犬 = 賢い犬」くらいのイメージしか持っていなかったため、とても興味深かった。

②荷物の中身や税関認可の有無までデータベース化され管理されているという非常にシステム化された施設で、さすが世界の物流会社だなと感じた。また、関西空港での取り扱いで医薬品が多いというのは少し意外であった。日本の輸出入量では空輸はなかなか割合が少なくなってしまうが、高額なものや緊急性のあるものを即時に運べ、24 時間稼働する空輸の利便性についても、詳しく知ることができた。

③ニュースなどで、「こんな手口で密輸を試みた者が逮捕された」というような話は聞いたことがあったが、実際には非常に多岐にわたる手法で密輸を試みる者がいることを実感できた。また、特に著作権に絡む偽造品については、「個人使用のため」と言われるとなかなか難しいというようなお話も聞け、取締りの難しさについて知ることができた。

④これまでもターンテーブルの空間は何度も通っていたが、植物や動物の検査場があることは初めて知った。あらためて周りを見ると、税関に関わる様々な設備があり、日本の国に入れる前最後の砦としての役割を果たしていることを感じた。"

18

麻薬探知犬については、遊んでもらうことが犬にとっての目的だということで、意外であった。タオルを巻いたもので遊ぶということであったが、これを悪用する者などがいないか不安になった。

DHL の物流施設では通関業務にまつわる話が印象的であった。顧客が提出するインボイスをベースに通関書類を作製し、事前審査などをクリアさせるということで、そのために通関士など多くの人員を割いて通関業務に従事させ、それでも審査が通らないものは顧客にそれぞれ連絡をとって確認するという膨大な手間がかかることがわかった。輸出入の管理政策を強化することは政策を行う行政側にとってもそれなりのコストがかかるが、それを守ろうとする民間側のコストにも影響するのだと改めて実感が湧いた。

税関での押収物の説明では税関の検査率等が非公表だという職員の方の話が興味深かった。税関を含めた CIQ のための人員が訪日外国人の増加を受けて不足しているといわれているが、密輸などの摘発のための質を保ちながら快適に入国者を受け入れるというバランスは難しいところだと思った。

税関審査場では、いつものイメージと違い、まったく人がいなかったのでびっくりした。CIQ 人員確保のために近年予算の増額が行われているが、ピークシフトの考え方も必要な観点だと思われた。

参加してみて感じた、税関の意義・役割・将来について。

1. 日本の安全を最前線で守っていると肌で感じることができた。誰も気付いていないが、税関で日本の安全が保たれており防衛以上にとても大きな役割を担っていると思いました。
2. 税関出の押収の現場を見、職員の方の話を聞いて、対策を進めれば進めるほど手口も複雑化し、一筋縄では行かないことがわかった。しかし、税関は日本の安全を守る重要な役割を担っていることがわかった。
3. 税関は、私たちの社会の安全性や、財産の保護のために活動しているということを強く感じた。また特に、関西国際空港は 24 時間空港のために、成田空港からでさえ、便が回ってくるがあると知り、対応力の高い空港なのだと思った。
4. 最も印象的であったのはやはり偽造品の押収であった。偽造品全てが税関という正規のルートで入ってくるとは限らないが、帰国の際何気なく通っていた税関が偽造品の拡散を防ぐ最後の砦としていかに重要だったかを偽造品の種類を見て実感した。
5. 視察で拝見させていただいたように昔から税関の取り締まるべきものがやりとりされてしまっていることはまぎれもない事実ですが、今後よりいっそうグローバル化が進むと見込まれていること、そしてより高度な技術で持ち込み持ち出そうとするものが現れるなどと考えると、これから先税関が果たすべき役割はより大きなものになっていくのではないかと感じました。
6. 税関は数多くの人や貨物の中から怪しいものを一瞬のうちに見分け、検査にかけなければならないほど大変な仕事であるが、国民の生活を安全に保障するためには欠かせない仕事であると感じた。また、将来的には日本へ入ってくる人の数も多くなり、手口も今よりも数倍以上巧妙化すると思われるのでより高度なチェック能力が必要になると考える。それに加え、効率的に検査していくことも必要になると考えられ、荷物受け取りのゲートに入る前に門型金属探知機を用いて徹底的に取り締まった方がいいと思う。
7. 上記でも述べた通り、やはり税関は日本という国や私たちの生活を守るために重要な存在であるし、麻薬探知犬・コピー商品・金塊の密輸などを見聞きして「厳しすぎる」くらいのチェックが必要不可欠だと思った。同時に、グローバル化が進む中で税関の重要性はますます高まっていく(高めなければならない)と強く思った。
8. 最近、外国人の流入が増加しているのでこれから税関の役割が重視される世の中になるのではないかと思います。押収品の現実などと照らし合わせても、国内の安全を守るために、これからますます重要な意義をもつようになるのではないかと思います。
9. 関西国際空港の関税に新たに設置された金感知器のように、これからこういった機械の精密さはだんだん上がっていくだろう。しかし麻薬のようなものは、機械では探知できない。麻薬探知犬はいるが、完全ではないだろう。さらに脱法ハーブのように、何からが麻薬で何からが麻薬でないのかがわかりにくいものも出てきている。税関でしっかり取り締まるためにも、取り締まる対象をきっちりと定めた法律が不可欠であるように思う。

10. 税関は取締をしっかりとしなければならない一方でスピードが必要になるため、とてもバランスが難しいと思う。特に取り調べをするということはプライバシーをある程度は侵害しなければならないので、慎重さが必要なだろうと思う。
11. グローバル化が進展し、人と物の行き来が格段に増加する中で、麻薬や金などの密輸を防止する機能を有するのは唯一税関だけである。今後、2020年の東京オリンピックに向けて人、物の行き来が増す中で、麻薬や金のみならず、病原菌の進入阻止など税関が果たす役割は多くなっていくだろう。
12. 税関は日本の玄関である港や空港のあらゆる場所で、様々な能力を持った人たちの支えの中で、徹底した安全管理を行い、日本社会の安全を守る重要な役割をしているということを改めて実感した。
13. 税関は日本の窓口で、税関があるからこそ、国際的に取引される物品や、国際的に移動する人の安全が守られており、さらに国内・世界の安全を守っているということが分かった。今までになんとも思っていた以上に税関が担っている役割は大きいということが分かった。
14. 2番の質問の後半にも書いたが、税関は日本への違法薬物や金塊の密輸などを食い止める重要な役割を果たしている。最前線で日本を守っているという意味で意義深いものであると感じる。また今後インバウンドが増えるとともに密輸なども増えるであろうから、今後より一層その意義が深まると感じている。
15. 税関のゲートや押収物など、実際の現場の雰囲気を目の当たりにして、我々の国はこのようにして海外からの脅威に守られているのだということを強く痛感した。自分たちが税関を通る際には手続きが面倒なこともあって非常に煩わしい税関審査であるが、今回の見学を経てそれが自分たちの身を間接的にも守る手続きなのだということを感じた。
16. 税関は、日本国内へ、そして日本から国外へのモノや人の入り口である空港や港の警察のような存在です。もし税関がなければ麻薬などが広まったり、金塊が流通したりと人々こうむる不利益が増えるでしょう。税関は無くてはならないものだと感じました。
17. 税関は、やはり「日本の輸出入の番人」であると感じた。しかし、ただただ固く「来たものを守る」だけでは番人ではない。日本から密輸出・密輸入する方法は、そのモノによりどんどん変化を続けていくため、そこにしっかりと対応できるよう打てる手を先手で打っていく攻めの姿勢が重要なのだと思う。実際、麻薬犬の丹念な訓練や、密輸の摘発などでお話を聞き、税関としてもそのような姿勢を持って業務に臨まれているのだなと感じたことから、今後も攻めの姿勢でしっかりと番人であり続けることが大切なのだと考える。
18. 税関で現在行われている業務は関税を徴収するというだけでなく、密輸などを防ぎ、暴力団等の資金源を絶つという点でも多くの面から日本の安全安心のために必要なものだと思う。他方で、今後を考えると、ますます増加する訪日外国人などに対応するために、税関申告書の電子化や入国審査との連携が必要になると思う。ESTA などのような事前の審査情報をつかった摘発率の向上なども考えられ、省庁の壁を超えた CIQ 対応が必要となると思う。